

# 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

## グローバル人材育成プログラムから学んだこと

グナワン トミー  
Tommy GUNAWAN  
機械システム工学科 3年

### 1. はじめに

2017年8月17日(木)から9月4日(月)にかけて、私はカリフォルニア州のサンノゼに3週間のグローバル人材育成プログラムに参加した。その流れは先ずサンフランシスコの観光地を見物し、企業見学ツアーし、研修をするものだった。今回このプログラムに参加しようと思った理由は三つだ。一つ目、海外にある日系企業で働いてみたかった。二つ目、今まで習ってきた理工学部の知識をどう活かせるかをインターンシップを通して勉強したかった。三つ目、ホームステイでアメリカの日常生活を味わいたかった。

### 2. 企業ツアー

2017年8月18日(金)はシリコンバレーで大きなベンチャー企業の訪問をした。その流れでは Oracle, Auto-desk Gallery, Google, Computer 博物館, そして Intel であった。2005年から Google を利用してきた私は、Google の会社の様子を体験できた。大手企業会社だが、カジュアルな雰囲気ですべてのことで、周囲の人に対してマナーを守っているということに気づいた。また、コンピューター博物館で山崎さんというガイドが歴史を説明している間、「学生ならできないことはない」と何回も励まされた。その話を聞いて、ここで良い成果が得られるようインターンシップで頑張りたいと決心した。

### 3. 企業研修

#### 3.1 企業概念

私は Furukawa Sangyo North America, Inc (FSNA) で2週間研修を受けた。FSNA は親会社の古河グル

ープの製品を中心に米州、ヨーロッパに向けて販売ルートを開拓し、アルミ製品・航空機材・銅製品を主に、輸入・輸出ビジネスを行なっている商社である。

#### 3.2 研修日程

研修を2週間の日程を以下の表に表す。

表1 研修日程

8月21日(月)	オリエンテーション
8月22日(火)	古河・FSNA について
8月23日(水)	商社(1)
8月24日(木)	商社(2)・アルミニウムについて
8月25日(金)	商社(3)・銅について
8月28日(月)	銅箔・リチウムバッテリーについて
8月29日(火)	テレビカメラケーブルについて
8月30日(水) ~9月2日(金)	復習・仕事の手伝い

#### 3.3 研修内容

初日は面接のようにパワーポイントを使い自己紹介を英語で行った。オリエンテーションは会社の社員を知る良い機会であった。次に歴史及び取り扱い製品及びその用途を学んだ。会社の歴史を学ぶことで、FSNA の古河電工・UACJ などとの関係や製造してきた商品を知ることができた。

私は大学で学んだ機械工学の知識を思いだしながら、アルミニウムと銅についての講義を受けた。アルミニウムの化合物は1000系~7000系までのそれぞれの特性と用途を学んだ。また、銅製品の製造・加工方法を学び、加工された銅箔をリチウムイオン電池(LiB)の材料とする例にして詳しく学んだ。その後、LiBを製造している潜在ユーザーを探し、古河電工の銅箔販売についてメールと電話を使って、実際に営業活動を行なった。メールのやり取りと英語で電話をすることは今までで最も難しい作業だったと考えている。何故ならば、英語のビジネスマナーには慣れておらず、言葉遣いに気をつけな

ればいけなかったからである。

他に機械工学で触れない商学の基礎についても学んだ。例えば、商流、インコタームズ、見積依頼の作り方の基礎も紹介していただいた。私にとってはこれが新しい分野であり、すぐに理解することが難しかった。だが、担当者の説明が分かりやすかったため、理解することができた。

研修の後半は前半で受けた講義を英語で1枚のレポートにまとめた。それは販売先（vendor）やお客様（buyer）に対する報告あるいはプレゼンテーションの練習となる。報告書を簡潔にまとめ、わかりやすく伝えることは技術者として不可欠なことであろう。毎日そうすることで、少しずつ記述力を身につけることができたと考えている。

### 3.4 研修を終えて

今回の研修において、仕事をしながらアメリカのことを楽しめる機会を与えていただいた。昼休みにもたくさんの美味しいローカルレストランで企業の方と一緒に食事をした。そのおかげで、私はこの2週間を色々学べ、楽しく過ごすことができた。もちろん、仕事ができなかった所がたくさんあったかと思うが、それを乗り越えられたのは私を成長させたというみんなの応援があったからだと思った。

## 4. ホームステイ

日本に来た時からホームステイをしたかったが、このプログラムでその機会がやっと訪れた。2017年8月19日（月）からホテルにホームステイのご両親が迎えに来た時は嬉しい限りだった。家の中にホストマザー、ホストファザー、そしてもう一人別大学から同様のプログラムに参加した大学生がいた。

ホストマザーがいつも美味しい朝御飯と晩御飯を作り、私たちはテーブルの準備をし、食事中にその日にある出来事をシェアしていた。英語で教科書に

ない面白い英語もたくさん知った。例えば、“Play Hockey”は“サボる”とか“To the left”はバイカー同士の用語で、“通させて”という言葉を学んだ。

ご両親は自転車に乗ることが好きで、自転車に乗るときのルールを教えてもらい、私も自転車で通う時に他のバイカーを観察しながらルールを少しずつ理解した。他に気づいたことは、道ですれ違った人がいたら必ず向こうから挨拶をしてくるなり、道で困った時も現地の人が親切に助けをしてくれることがあった。

ある週末にホストマザーの友達の誕生日パーティーに出席した。私がアメリカドラマでよく見るパーティーの風景と一致した。そこで、私はアメリカで就職することについてたくさん伺った。この機会は私にとって人と人との繋がりを増やす機会でもあった。

今回のホームステイでは短い期間ではあったが、私にとってホストファミリーと一緒に過ごせた時間は全て貴重であった。アメリカでの生活が非常に充実したものにできたのは、ホストファミリーのおかげに他ならない。

## 5. おわりに

今回のグローバル教育人材プログラムに参加した目的のその三つを達成できたと思った。つまり、海外の日系企業で研修でき、学んできた機械工学の知識に加えて商社の知識と業務経験できたことは将来を考えるうえで貴重な時間であった。また、この2週間のインターンシップを通して、グローバル人材なるビジネスマナーマナーはどこにいても社会人の常識でもある。さらに、失敗したことを分析し、嫌いなことでも毎日磨き、成長し続けることを学んだ。

私は Furukawa Sangyo North America の皆様にここまで成長させていただいたことに対して心から感謝をしている。